

宮私幼だより

No.124
 社団法人 宮城県私立幼稚園連合会
 〒980-0803
 仙台市青葉区国分町三丁目6-12
 佐正凱洋ビル 6F
 TEL 022-263-7040 FAX 263-7925
<http://www.miyashiyo.or.jp/>
 編集・発行人
 理事長 村 山 十 五



事務局だより

○関係機関団体

7月11日 幼稚園長等研修会（県教育研修センター）

7月11日 私学審議会（県庁）

7月21日 みやぎ教育の日推進協議会代表者会
 （7/28、8/4、10/21、10/26の6回）

8月3日 新規採用教員研修会（県庁講堂、他）

8月9日 幼稚園教育課程宮城県研究協議会（県庁講堂）

8月11日 幼稚園保育技術研修会（県研修センター）

8月14日 私学審議会（県庁）

9月11日 第15回仙台市私立幼稚園教育振興大会並びに

第46回仙台市私立幼稚園PTA連研修大会

（仙台市民会館大ホール）

みやぎ教育の日推進協議会代表者会

第29回宮城県私学振興大会（県民会館）

みやぎ教育の日推進大会

私学審議会（県庁）

○全日私幼連

8月23日 第12回東北地区私立幼稚園教育振興協議会・

宮城大会（仙台市）

8月29日 30日 全日私幼連10年経験者研修会（東京）

9月19日 平成18年度都道府県102条園代表者会議（東京）

9月25日 26日 第20回全日私幼連地方自治体対策協議

会（青森市）

10月19日 第21回全日私幼連東北地区私幼教研大会・八

戸大会 運営委員会

10月20日 第21回全日私幼連東北地区私幼教研大会・八

戸大会 公開保育・分科会

10月21日 第21回全日私幼連東北地区私幼教研大会・八

戸大会 全体会（八戸市・八戸市公会堂）

11月13日 14日 第22回全日私幼連設置者・園長全国研

修大会（那覇市）

11月22日 東北地区会第1回団体長会議並びに教育研究

担当者連絡協議会（盛岡市）

11月29日 第21回全日私幼PTA連合会全国大会（東京）

12月6日 全日私幼連理事会（東京）

1月22日 全日私幼連全国研究研修担当者会議（京都市）

卷頭言

「年頭所感」



宮私幼理事長 村 山 十 五

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、会員の先生方のご健康を祈念申し上げます。

今年は亥年、猪突猛進ではなく、一步一步確実に前進したいと考えております。

昨年、子どもたちの事件事故が相次いで発生し、今年に入って、県内の小学6年生が学校で転落死。他人事ですまされる状況ではないように思われます。ある保護者から「幼稚園は大丈夫？」と心配の声が届きました。園長はもとより全教職員が危機感を持って、この一年間を過ごしたいものです。

教育基本法が改正され、幼児教育や家庭教育の重要性がしっかりと位置づけられました。同時に、認定こども園もスタート致しました。人

間を育てる第一歩は、母親であり、幼稚園（保育園）であるとの自覚をもって、子どもに接していきたいものです。

今年の宮私幼連合会の課題は、経営基盤の確立はもちろんのこと、教職員の退職金給付事業の健全化、「幼児教育振興アクションプログラム」の趣旨に沿った、未就園児の子育て支援、幼稚園の自己評価、外部評価、幼保連携、教員の資質向上等があげられます。さらに、宮城県沖地震の発生も心配されます。これらの課題解決のためには、役員はもちろんのこと、諸先生方のご理解とご協力が何より大事であります。会員一致協力して、「子どもの幸せ」のために一歩一歩前進致しましょう。

（1頁の続き）
○宮私幼のあゆみ

開催日	開催内容	開催日	開催内容
7月4日	「宮私幼のあゆみ」 理事会	10月16日	広報委員会 第1回設置者・園長研修会
7月5日	研究委員会	10月18日	第32回宮私幼PTA親善バレーボール大会（県総合体育会）
7月7日	広報委員会	10月24日	造形教育作品展（県美術館）
7月12日	総務・給付委員会	10月25日	石巻地区教育振興大会・第7回宮私幼PTA石巻地区研修大会（石巻文化センター）
7月18日	経営委員会	11月15日	総務・給付委員会、理事会、広報委員会
7月25日	26日 主任・中堅教員研修会（仙台市民会館）	11月16日	認定こども園についての研修会
7月26日	27日 新任教員研修会（茂庭荘）	12月7日	知事陳情
7月26日	仙南地区設置者園長研修会（柴田町・サンシャイン青葉）	12月12日	総務・給付委員会、理事会、広報委員会
7月28日	名取・岩沼地区設置者園長研修会（岩沼市・竹駒神社参集殿）	12月12日	表彰受賞者祝賀会
7月31日	気仙沼・登米地区設置者園長研修会（南三陸町・南三陸ホテル舘洋）	1月12日	経営委員会
8月1日	研究委員会	1月17日	研究委員会、第3回研修担当
8月2日	大崎地区設置者園長研修会（大崎市・レストランスギヤ）	1月18日	総務・給付委員会、経営委員会
8月3日	10年経験者研修会（仙台市青年文化センター）	1月19日	広報委員会
8月4日	未満児保育研修会（宮城県民会館）	8月27日	村山智賀子氏（るり幼稚園初代園長）ご逝去
8月8日	塩釜・多賀城地区設置者園長研修会（多賀城市・多賀城市民会館）	9月10日	中新田幼稚園創立50周年記念式典
8月9日	石巻地区設置者園長研修会（石巻市・石巻グランドホテル）	10月14日	旭ヶ丘幼稚園学校法人設立記念式典
8月10日	仙台地区設置者園長研修会（仙台市・旭ヶ丘市民センター）	10月30日	宮城学院創立120周年記念式典
8月21日	総務・給付委員会、理事会 養成校との懇談会（KKRホテル仙台）	11月11日	宮城学院創立120周年記念式典 星野艶子氏（教育文化功労） 尚綱学院大学女子短期大学部 附属幼稚園開設50周年記念式典
9月6日	研究委員会、第2回研修担当者連絡会	11月25日	草の芽幼稚園創立30周年記念式典
9月13日	総務・給付委員会	11月8日	秋の叙勲（瑞宝双光章）吉岡律子氏（岩切東光幼稚園）
9月20日	幼保連絡協議会	12月2日	齋藤久吉氏（宮私幼初代理事長、塩釜聖光・利府聖光幼稚園前理事長）ご逝去
9月22日	県議会議員との早朝勉強会		
10月11日	総務・給付委員会、研究委員会		

スポットニュース

私立幼稚園における給食の提供及びスクールバスの運用にかかる消費税の取り扱いについて

【全日私幼連広報委員会】

平成19年 1月19日付け文部科学省初等中等教育局幼児教育課長名による各都道府県私学担当部長あての通知において、その基本的な取扱い方針が明らかにされていますが、なお下記事項についてもお留意願います。

記

- ① 今回は、制度（消費税）の改正によって非課税対象に加えられたわけではないので、一部の新聞報道にあったように現在徴収し

ている給食代、バス代がそのままの形で当然に非課税となるものではないこと（給食代、バス代として別個に徴収する場合は引き続き課税対象であること）。

- ② 給食に関する経費またはスクールバスの運営に関する経費を保育料（または施設設備費）に含めて（溶け込ませて）徴収する場合は、消費税が非課税とされるものであること。
- ③ 特別な理由のある園児について、個別の対応として保育料（または施設設備費）の軽減が必要となる場合があることは認められているものであること。
- ④ その他実務上生じる諸問題については、今後経営研究委員会においても検討していく予定であること。



Close・up 理事会

平成18年度宮私幼理事会の概要

日 時 8月10日（木）午後3時～

場 所 宮私幼会議室

議 題

- (1) 認定こども園について

- ① 新聞広告について
- ② 県の認定基準（案）に対するパブリックコメントについて

その他

- (1) 各委員会の活動状況について
- (2) 平成18年度全日私幼連東北地区会議12回東北地区私立幼稚園教育振興協議会の開催について
- (3) その他
- ① 全日私幼連のアンケートについて
- ② 課税対象となっている給食費・送迎バス代に対する消費税の動きについて

日 時 11月16日（木）午後3時～

場 所 宮私幼会議室

議 題

- (1) 公益法人検査の結果及び回答について
- (2) 社団法人宮城県私立幼稚園連合会旅費規程の改正について

- (3) 学校法人高橋学園（せいがん幼稚園・あかね保育所）に関する諸問題について
- その他

- (1) 各委員会の活動状況について
- (2) 平成19年度第15回東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会の開催について
- (3) 受賞祝賀会の開催について
- (4) 第21回全国私幼連PTA全国大会の会場変更について
- (5) その他

日 時 12月12日（火）午後3時～

場 所 宮私幼会議室

議 題

- (1) ろりぼっぶ幼稚園・保育園の退職手当資金給付事業への加入について
- (2) 就職内定学生実習期間の傷害保険について
- その他
- (1) 各委員会の活動状況について
- (2) 平成19年度予算編成について（事業計画及び予算要求）
- (3) 平成18年度事業報告について（事業実績報告及び会議開催報告）
- (4) 平成18年度第2回総会日程について
- (5) 平成18年度第7回理事会日程について
- (6) その他
- 退職手当資金給付事業掛金の振込問題について

地区別設置者園長会並びに研修会報告

経営委員長 横 澤 行 夫

7月末から8月上旬に全7地区において、設置者園長会が、開催されました。

各地区長の皆様、お世話様でした。今回は、認定こども園についての村山理事長よりの説明があるということもあり、各地区とも、ほとんどの幼稚園が参加していました。

18年度の実態調査の集計結果について、経営委員より報告があり、それにもとづき、19年度の園児募集の件、保育料等納付金の件、初任給等教職員の待遇の件等申し合わせ事項を、協議していただきました。

宮私幼からの提案の「9月1日より園児募集のPR及び願書配布を開始する。受付は11月1日より始める。」を全地区承認いただきました。他の申し合わせ事項につきましては、それぞれの地区の実態に合わせて、共通理解をしていただきました。また、宮私幼の各委員会よりの報告及び懸案事項の話もありました。

次に村山理事長より、認定こども園について経過報告がありました。平成18年6月に、国会において「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」が承認され、平成18年10月1日から施行されることになりました。7月のはじめに、県より伝達説明があり、また、7月28日から8月10日までの間に宮城県のホームページにて、「認定こども園に関する宮城県の認定基準等」に対する意見提出手続(パブリックコメント)を募集しているので、出来るだけ多くの方々に意見を提出してください。との、説明があり、参加者のみなさんより、活発な質疑がなされました。具体的には、9月の県議会に認定こども園に関する条例が提案され、10月のはじめに施行される予定とのことでした。

設置者・園長会参加の多くの方々より条例が施行された段階で、是非研修会を開催し、より具体的な説明をして欲しい、という要望が、各地区会で出されてきて設置者・園長会を終了いたしました。

10月5日の県議会の最終日に認定こども園に関する条例が可決し、10月16日に設置者園長研修会を、大和証券会議室を会場にて開催いたしました。



当日は、多数の参加者があり、関心の度合いが高いものだなと、思った次第です。

テレビ局からも取材に来ており夕方のニュースで研修会の様子が流れておりました。また、後日「認定こども園」に関しての特集番組でも取り上げられていました。

講師は、県保健福祉部子育て支援室室長さんで、「認定こども園に関する解説書」をテキストに説明がありました。内容は、認定こども園に係る法規について、認定基準について(職員配置、職員資格、施設設備、教育及び保育内容、保育者の資質向上等、子育て支援、管理運営等)、申請手続について等でした。参加者の多くは、はじめは意欲を持って話を聞いていたが、最後には、その意気込みは、なくなってしまったと、感想を述べる先生方が多かったようです。

その後の申請状況は、12月1日に認定第1号の園(南光紫陽幼稚園)が、マスコミで発表されただけの状況です。

平成18年度 全日私幼連東北地区大会 第12回東北地区私立幼稚園教育振興協議会 (宮城大会)

期日：平成18年 8月23日(水) 会場：ホテルモントレ仙台

趣 旨

東北地区における私立幼稚園の振興のために、東北各県私学担当者と私立幼稚園団体役員が一堂に会し、協議・研修を深める。

主 題

「私立幼稚園の振興について考える」

～私立幼稚園の振興策と地方自治～

協議内容

私立幼稚園教育振興のための東北各県における取り組み及び情報交換

開会行事で、初めに東北地区会会長（岩手県団体長）山折昭磨氏が挨拶し、冒頭、宮城県副知事伊藤克彦氏に来賓としてご臨席いただき、また東北六県の私学担当者にお出でいただいたことに謝意を表した。昨今の私立幼稚園を取り巻く困難な時期に、東北各県の私学担当者、各県の私立幼稚園団体の役員が一堂に会して協議することはきわめて意義がある。特に、「認定こども園」が10月1日から施行されるにもかかわらず、はっきりしないことが多い。そのような中、この会は、これからの東北地区私立幼稚園の振興のために大いに期待されるところであると述べた。続いて、宮私幼理事長村山十五氏は、東北各地から仙台へお出でいただいたこと、また、ご来賓の方々にはご多忙の所ご臨席いただいたことに深謝した。大変厳しい私立幼稚園の環境だが、今日の協議が実り多いものとなりますよう期待すると述べた。

ご来賓の祝辞として、初めに伊藤克彦宮城県副知事は、本会が宮城県で開催されることを喜んでいる。日頃、幼児教育の振興にご尽力いただいていることに感謝している。本県では約8割が私立幼稚園だが、園児数は年々減少し、経営が厳しくなっている。本県の財政は厳しいが、未来を担うこどもたちのために尽力したい。「認定こども園」の条例の制定に向けて準備中であると述べられた。次にご祝辞をいただいた宮私幼PTA連会長渥美巖氏は、12回目の本会が宮

城県で開催されることは非常によろこばしい。幼保の一本化は大いに良いが、私立幼稚園を圧迫しないでほしい。本県では待機児童が多数いるのに対して幼稚園は定員割れを起こしている。本県でも「認定こども園」について準備を進めているが、市町村のことを考えると10月1日実施は無理であろう。平成18年度予算は、本県の厳しい財政の中で一般予算が0.5パーセント減に対して、私立幼稚園関係は3.3パーセント増だが、さらにPTAと宮私幼が協力して全国最下位に近い助成金を子どもたちのために増額に努力したいと述べられた。続いてご来賓紹介の後、山折氏の進行により協議フォーラムに入った。

まず、各県私学担当者の紹介をいただき、各県の実情紹介を資料をもとに平成17、18年度予算について説明いただいた。特に、どの県も財政が厳しい中で、預かり保育や特殊教育費補助などで独自の事業をやっている県もあり、うらやましい限りであった。続いて、協議・意見交換では、上記の県単の預かり保育、中高生の保育体験、子育て支援、地域開放、退職金等への補助事業について活発な質疑がなされた。

若干の休憩の後、宮私幼理事長村山氏より講師の全日私幼専務理事の富永栄一氏をご紹介いただいた後、演題として「認定こども園について」のご講演をいただいた。終了後、質疑があり、東北地区副会長藤野護氏の御礼の言葉があった。そして、次期開催県を代表して岩手県の山折氏から挨拶をいただき、藤野氏の閉会の言葉で終了した。



第21回東北地区私立幼稚園教員研修大会（八戸大会）

《大会テーマ》21世紀 幼児にふさわしい生活を創る
【～今日的課題の中で 子どもの育ちを考えよう～】

280年以上の伝統があり、国の重要無形民俗文化財に指定されている「三社大祭」で有名な八戸市で、10月20日・21日の両日、研修大会が開催されました。

今回の公開保育は11園。その中の第3分科会会場となった「まぼろば幼稚園」を取材させていただいたのでご紹介します。

第3分科会はテーマに、“3・4・5歳児の生活と5歳児の育ち”を掲げ、(1)新入園児が一日も早く見通しを持って園生活を送れるようになること。(2)年上の子どもたちが、年下の子どもたちを気かけ、世話をすることをきっかけに、自信を深めていけるようになること。を目標に研究が進められてきました。

初めは互いに関わり方が分からず、ぎこちなかったり、かまわれることを嫌がって泣いたりすることがあったようですが、年上の子どもたちが試行錯誤を繰り返しながらも“きっかけ”をつかむと、次第に年下の子どもたちにも安心感と信頼が芽生えてきたようです。それによって、年下の子どもたちの安心が笑顔として表れ、その笑顔を嬉しそうに見つめる年上の子どもたちの表情には、頼もしさを感じられるようになったということです。そういった中から、何事においても「自ら考えてみる」「友だちと考え合う」という5歳児ならではの発達の姿を見ることができるようになったと、今までの経緯を事例を交えながら紹介していただきました。



朝の全体活動「元気に体を動かそう」



砂場での戸外遊び

公開保育の戸外遊びの際には、年上の子どもたちが、年下の子の後片付けにも目を向け、声を掛けて一緒に片付けようとしたり、ミュージックゲームでは、ペアを組んでいる年下の子を気に掛けながらリードしている光景が見受けられほほえましさを感じました。

指導助言として、玉川大学講師の高橋かほる先生が、『園内外が細部にわたって行き届いておりとてもきれいだである。また、先生方がとてもエネルギーで生き生きしていて素晴らしい。これは人前に立つ者の基本である。主題への取り組みも、それぞれの子どもたちの発達の特性を生かして臨んでおり、大きな成果を収めている。3・4・5歳児の発達は学年により大きな違いがある。5歳児の「思いやりを育てる」「競争心を育てる」「ルールを守らせる」などについて考えるとき、3・4歳児ではどんな成長過程が考えられるか、どんなことがどんなふうに必要なのかといったことを、今後も工夫していただければいい。』と述べられました。

研究発表としては、弘前の私立幼稚園の代表者の集まりである研究サークルが、“3・4・5歳児が、ともに園生活をする中で、互いに学びあう良さと5歳児の発達の姿を考える”をテーマに発表されました。

各園生活の中で5歳児が3・4歳児と関わり合い、育ち合う姿の事例を持ち寄り、意見交換をしながら、それぞれの年齢でどんな育ちが身

につくのかを検証していったようです。

まとめと今後の課題として、5歳児は3・4歳児との関わりの中で、時には気持ちを押し付けてしまったり、逆に心を痛めたりなど試行錯誤を繰り返しながら、自分なりに関わり方を身につけ、年長児としての役割を身につけて行っている。一方、3・4歳児も、5歳児に受け入れられたり、逆に突き放されたりしながら社会性を身につけたり、遊びや活動の中で刺激を受け、憧れ持ったり、真似てみようとする姿が徐々に見られてきたということでした。最後にこのようなやりとりが心の育ちにとって大変重要であるのではないかと結ばれた。

指導助言として、玉川大学講師の高橋かほる先生からは、『子どもたちの姿を年齢に応じて丁寧に追っており、具体的な子どもの姿が見えてくる資料である。研究サークルの取り組みでは、それぞれの園から、関わり合い、育ち合う姿の事例を持ち寄り、意見の出し合いが熱心にされ



ミュージックゲーム（年長組と年中組）

ている。そういった話し合いのプロセスが大変勉強になったのではないかな。また、子どもに何を身につけさせるのかを考えて支援していかなければならないが、支援を出し過ぎても主体性が育たないので、どこの場面でどのように支援するか考えていかなければならない。そういった意味でサークルの方々は、その場にふさわしい支援を細やかになされていた。』といったことが述べられました。



養成校との懇談会



総務・給付委員長 吉岡弘宗

昨年8月21日(月)にKKRホテル（青葉区花京院）において、宮私幼側として理事長はじめ副理事長・常任理事そして総務・給付理事9名と、養成校側として県内6校8名そして県外4校5名が出席し懇談会を行ないました。

村山理事長の挨拶の後、養成校側を代表して宮城学院女子大学発達臨床学科長の石川隆先生の挨拶をいただき出席者の自己紹介となりました。そして、議題として『宮私幼の現況について』『就職内定学生の傷害保険加入状況について』『認定こども園について』三議題について理事長の方から、詳細に説明をしていただきました。とりわけ、傷害保険に関しては、養成校側から多大な評価をいただきましたが、『認定こども園』に関しては、内容把握が思った以上になく情動的にとらえている様でした。私自身これでいいものなのか、少々落胆いたしました。説明続きの時間が40分位経過し、10分間の休憩に

入りました。トイレに向ったり、個々に名刺交換をしたりと、和やかな雰囲気が出来た所で後半戦になりました。

後半は、2グループに分かれてのフリーディスカッションの形成をとりました。話題の筋道的には、『養成校からの現況そして宮私幼への要望について』を開きながら、現場サイドとしての回答しながらの話し合いとなりました。解決策というよりは、養成校側にはもっともっと現場で苦慮している観点を理解してもらうべく、話を聞いていただきました。反対に養成校側での学生さんに対する配慮も聞かせていただき、今までと違った観点でディスカッションが出来た感じがします。話したりなかった点がありますが、現場側と養成校側との相互理解に関しての“はじめの一步”が出来たような気がします。ありがとうございました。

幼 な 子 と と も に

幼稚園訪問記・旭ヶ丘幼稚園



〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘2-22-21
園児数68名 3学年
(年少18名、年中26名、年長24名)

今回は、昨年4月から102条園から学校法人に移行され、また、園舎もログハウスへ改築された仙台市の旭ヶ丘幼稚園へお伺いしました。

設立は昭和40年で閑静な住宅街の丘の上に位置しており、現在では、台原・旭ヶ丘周辺等のマンションからも園児が登園されている



ようで、取材にお邪魔した日には、ちょうど子どもたちは縦割り保育で製作活動に夢中でした。

昨年度までは、102条園として厳しい補助金での園運営から、今年度は学校法人化をして、どのような変化があったのかをお聞かせいただきました。

旭ヶ丘幼稚園では

- 教育時間
月～金曜日までは、9：00～14：00で土曜日は休園となります。
- 預かり保育
月～金曜日まで、14：00～17：00時まで、また、長期休業中は、9：00～17：00まで行っております。
- 未就園児教室
年9回実施しております。
- 給食
月、木曜日は給食となり、火、水、金曜日はお弁当になります。
幼児期に好ましい食習慣を身につけるように支援しております。

〈学校法人園にして・・・〉

個人立園の時（補助金は学法園の四十数％）と比べれば、増えた補助金により、教員増や教職員への処遇改善を図ることができ、それに伴い保育内容も充実させることができました。

しかし、経営面では尚も資金不足であり、運営費補助の増額を願っております。

〈通ってくる子どもたちは、この地域に住んでいる子が多いのですか？〉

旭ヶ丘の地域は古い住宅街ですから、その地域からの子どもたちは年々減少しておりますが、新たにマンションの多い地域からの子どもが増えてきております。



〈特に力の入れている教育等がありましたらお聞かせください〉

センス・オブ・ワンダー（驚き・感動・発見）の体験を通して人や自然との平和な関係を創造して行く力を養えるようにしております。

- ・のびのびした子（のびのびと自己発揮）
- ・やさしい子（思いやりから協力・協調）
- ・かしこい子（かしこく問題解決）



学校法人化へ移行されても、子どもたちの幸せを願いながら、新しいログハウスの保育室の木の温もりのように温かな雰囲気旭ヶ丘幼稚園の取材を終えました。(H)

幼 保 連 絡 協 議 会

日時：平成18年 9月20日(水)

会場：宮私幼事務局会議室

近くて遠い存在だった保育園と幼稚園の初めての協議会が開催された。宮城県保育協議会から会長の佐藤政男氏他5名の方々、宮私幼から村山理事長他7名が出席して行われた。

挨拶として、宮私幼村山理事長、保育協議会の佐藤会長が互いの立場の違いをふまえてこの会が開かれたことの意義を述べられた。出席者紹介後、「認定こども園」に関わる情報交換を議題に、はじめに双方の組織について説明があった。

保育所は公私の区別がなく、公私一本の組織は全国保育協議会が最大である。また、保育所は経営感覚も薄く市町村との結びつきが強いと説明があった。

本題の「認定こども園」について、宮城県条例等（案）をもとに意見交換があったが、保育所からは何のメリットもないということ、私幼も積極的なのは約1割程度で様子見が多い現状が報告された。また、今回の制度は幼保一元化のはずが三元化となってしまう、「認定こども園」が出てこなかった方が良かったという意見も出た。この他、保育所と幼稚園の在園状況、補助金等の資料をもとに話題は多岐にわたり、



この制度は幼保一元化よりも財政難の方が強いのではないかと、行政は現場の実情を分かっている、子育て支援が逆効果として出ている、幼保の格差等々活発な意見が交わされた。

最後に、宮私幼側から、佐藤宏郎副理事長が今回第1回の顔合わせであり、今後幼保のあるべき姿を模索していかなければならないと述べた。保育協議会側からは、平塚幹夫事務局長が今回立場の違いを学ばせていただいたということ、幼稚園の先生方がよく勉強されていると実感した。是非、この会が継続していくつかのテーマを持って話し合っていければよいとまとめられた。

平成18年度 全日本私幼連102条園研修会

平成19年2月7日

東京（アルカディア市ヶ谷私学会館）

全日私幼連102条園対策委員会では、会議及び研修会を年に二回開催しておりますが、昨年9月19日、そして、今回と「認定こども園」についての研修が行われました。

今年に入り各都道府県では条例化が進み、全国の状況が見え始めてきましたが、「認定こども園」に関して、東京都とそれ以外の各県との温度差の大きさに驚くばかりでした。

従来から東京都の102条園に対する補助は、都と各市、区から出ておりましたが、今回、認定こども園に移行した際にも更に手厚く補助があるとの事でした。

平成19年度からの国から各都道府県への財源移譲も大きく後押ししていると思われます。

「102条園の灯は消さない」と三浦貞子全日私幼連会長も話されているようですが、東京都の特殊性（六百数十園の半数が102条園）もあり、昔もこれからも、中央と地方との格差が大きくなるばかりで、各県の代表者からも、今後、生き残っていくための研修をしていただきたいと、切実な意見が出されました。

また、有志による懇親会の席では、各地方においても、将来の年長児の無償化や認定こども園に対する補助が可能になった際に慌てて対応するのではなく、教職員の勤務体制等、今の段階から準備しておくことが必要であると締め括りました。

さて、宮城県内の102条園の灯を消さない為には・・・。

研修をふり返る

研究委員会

私たちの研修は園内研修をベースに地区と宮私幼主催の研修等を通して保育に関する実践力等について、広い視野に立った力量を高めることを目的に行っておりますが、その中からいくつかをふり返ってみます。

●新任教員研修会 7月26日・27日…107名

講話1では「新任教師に望むこと」と題して先輩教師から子どもや保護者への接し方、職場で望ましい人間関係のあり方について実践的なことを学びました。

講話2では「保育に絵本を生かすには」と題して、フレーベル館木村美幸氏から保育絵本の園での活用方法、読み聞かせがうまくなる方法等について実演を通してお話をいただきました。

課題別分科会では「個人記録の取り方」「保護者とのコミュニケーション」「クラス運営」

について話し合い、全体会で発表し合い内容を共有することができました。

●中堅教員研修会 7月25日・26日…350名

講師の青木久子先生が準備された資料とテキストをもとに就学前教育としての教育内容の確認と小学校教育との接続について講義を1日目にいただき、2日目はグループに分かれ提示された事例に対し各自が問題解決のための対応策や意見を述べ合い実践につながる話し合いができました。

●10年経験者研修会 8月2日…40名

午前は阿部芳吉仙台市教育委員長から10年経験者のリーダーシップについて講話をいただき、午後はグループに分かれテーマについて保育現場がかかえる今日的課題を話し合いました。

●未満児保育研修会 8月3日…55名

未満児保育の現状や問題点、カリキュラム作成などについて話し合い共通の問題点について助言をいただきました。

平成19年度は「自己点検・評価」「5歳児の育ち」についての研修も取り上げてまいります。

インターネット利用 ひとくちメモ

広報委員会では、インターネットに関する研修会を予定しておりましたが、研修内容を最近の環境に合ったものが望ましいと考え翌年度に実施することにしました。

1月には、Windows Vista（ウィンドウズビスタ）が発売され、Windowsも五年ぶりに新しくなりました。Vistaの登場に伴って、Internet Explorerについてもバージョンが、7になりました。だいぶセキュリティ面が強化されたようですが、Vistaの最新機能を利用するには旧式のPCでは難しいようです。

幼稚園関係でのインターネットの利用は、スポーツ振興センターの[災害共済給付オンライン請求システム](#)や私学共済の各申請用紙のダウンロードなど皆様もご利用されていると思います。

また、昨年、テストを兼ねて仮登録を行った、

学校基本調査もありました。今まで手書きだったのですが、縦計、横計、計算結果の矛盾のチェックも自動で行えるので便利になりました。

ただし、テストでは、職員数、園児数の調査票だけでしたから、他票も機械化されると更に便利になりますね。

加えて、県の実態調査も機械化されるとますます便利になるのですが……。

今後、ファームバンキングを利用する幼稚園もますます増えてくるでしょう、なにしろ銀行へ行かずとも振込ができるのですから。

そして、雇用保険の手続きや確定申告も今ではインターネットを利用して可能になりました。

残るは、宮私幼への提出書類のオンライン化だけです……。

（おまけ）Windows Vistaの新機能を最大限に使う為には、システムメモリが1 GBytes（ギガバイト）以上、グラフィック関係のメモリも多く必要とか……。Vistaへのversion upは注意が必要のようです。

知 事 陳 情

去る、12月7日に宮私幼PTA連合会役員と宮私幼常任理事による「平成19年度私立幼稚園に対する補助金等についての陳情書」を携えて村井嘉浩知事に陳情に行ってきました。

要旨は、

- 1、幼稚園に対する運営費補助金は、今後国が示す額まで増額していただきたい。
- 2、宮城県私立幼稚園連合会の退職手当金給付事業に係わる補助金を、設置者掛け金の2分の1相当額(1,000分の32)まで引き上げていただきたい。
- 3、私立幼稚園に対する子育て支援活動に係わる教育改革推進補助制度を新設していただきたい。

の要望を行いました。

陳情には、宮私幼PTA会長・宮城県議会議員渥美巖氏、宮城県議会議員中沢幸男氏、菊池文博氏にも同行いただき、強力な支援をしていただきました。お母さん代表の南雲さんと尾張さんは、保育料負担が家計にしめる割合が大きい実情を訴えておりました。これに対して知事は、まず厳しい県の財政についてお話になり、1については、すぐに国並みが無理でも

これ以上下がらないようにする、2については、要望にお応えできるように私学文書課長中心にがんばっている、3については、少し様子を見させていただきたいとご答弁いただきました。さらに、この4、5年辛抱していただければ、余裕が出てくるのでご理解いただきたいと述べました。

陳情は、私立幼稚園の実情にお詳しい村井知事でもあり、きわめて和やかに終始しました。また、特別の計らいで普段見ることができない特別応接室を見学させていただきました。

その後、県議会議長相沢光哉氏を訪ね同様の要望を行いました。議長は議会としてご要望に精一杯お答えしたいとのお返事をいただきました。



認定こども園関連情報

＜私立で5施設（公立が4施設）が認定＞

認定こども園は、秋田県（幼保連携型、幼稚園型）、宮城県（幼稚園型）、茨城県（幼保連携型）、宮崎県（幼稚園型）、大分県（幼稚園型）です。

その他各県の状況は、福島県が条例公布・施行、説明会実施。福岡県は私立幼稚園1園、保育所が1園申請中、公立幼稚園と公立保育所の幼保連携型が4月から開始予定。宮崎県は更に2、3

園が申請の動きあり。岩手県は申請中の園が1園。

島根県は20年4月を目指して2園が取組んでいる。埼玉県は希望園に対しての説明会開催。兵庫県は条例が施行された。山形県は5施設が申請中（3施設が幼稚園）。

東京都は、147園が認定を希望とのこと、435園が希望しない、229園が保留中とのこと。土曜日を運営しなくとも認定可能であることや都、市、区から補助があるようです。

受賞おめでとうございます。

日 時 12月12日(火) 午後
会 場 仙台エクセルホテル東急

叙勲 瑞宝双光章【教育功労】

吉 岡 律 子 先生
(岩切東光幼稚園園長)

宮城県知事表彰【教育文化功労】

星 野 艶 子 先生
(新坂通幼稚園設置者・園長)

発起人を代表して鎌田文恵副理事長の挨拶で開会、村山十五理事長が受賞者の功績等を紹介し、宮私幼PTA会長渥美巖先生からご祝辞を

いただきました。吉岡律子先生には体調を崩しておられ、代理のご子息吉岡弘宗先生が叙勲の様子、律子先生の近況、そして御礼を述べました。星野先生は、ご苦労もあったでしょうに、これまでの幼児教育の歩みと熱意を淡々と話されたのが印象的でした。



幼稚園創立50周年を迎えて

中新田幼稚園 園長 岩 岡 明 子

初代の園長夫妻が保育園として地域の子育てに力を注ぎ、地域皆様方のご支援を頂きながら昭和32年4月、中新田幼稚園を創立し、仏教保育を規範に幼児教育に取り組んで参りました。

今回記念行事をするにあたり、実行委員会を設立し、平成18年9月10日当日を迎えました。

記念式典はバッハホールで開催され、実行委員長からの経過報告に続き、ご来賓の皆様方からの身にあまるご祝辞を頂戴し厳粛に行われました。第二部のお祝い会は園児が中心となり、県の無形文化財の“虎舞”始め満3歳児から年長児、卒園生の1～2年生にも参加頂き元気一杯なステージ発表となりました。懐かしい曲目も多く取り入れたので旧職員、卒園生にも好評で



した。

会場を移しての祝賀会。来賓の皆様方の心暖まる祝辞、開園当初の様子から現

在の様子のスライド上映、第2回生中心のフォルクローロ演奏と和やかな雰囲気に参加者皆様方の交流も深められ“閉会のことば”が終っても席を立つ人は少なく皆様満足そうで主催者としては嬉しい限りでした。記念誌は1回生から49回生までの卒園写真を中心に各回生から2名の原稿を頂きカラー写真を多く入れて頂きました。何と卒園生の生れ歳と頁数が同じというおまけ付きです。



手に取って下さった方々からは『いい記念誌ですね』と声を掛けて頂き、実行委員皆様方の力の結集の代物と思っております。

現在少子化が進み厳しい現実ですが、建学の精神を根底に地域に根差した幼児教育を目指し、地域の皆様方に感謝の気持ちを忘れず、教職員一同力を合わせ頑張らねばと責務を感じているところです。

【表紙によせて】

旭ヶ丘幼稚園

編集後記

異常気象・・・？ 今年の冬は新品のスタッドレスタイヤにしたのにもったいないと思う日々が続いていましたが、急に冬らしく路面が凍結すると走り方を忘れていた自分に気づきます。濡れた路面なのか、凍結路面なのか判断するのがとても難しいですし、暖冬と言えども冬は冬なのですから安全運転を心がけましょう！

さて、財源移譲されても宮城県の当初予算は幼稚園関係もマイナス？、県議の皆様のおかげでプラスに変わりそうです。しかし、全国ワースト2位、3位争いは変わらないのでしょうか。東京都が羨ましいとよだればかりが落ちる今日この頃です。

(Lingzhao)